

第120号

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE ALUMNI ASSOCIATION NEWS



東京農業大学 校友会ニュース

[発行]東京農業大学校友会 〒156-0054 東京都世田谷区桜丘3丁目9-31 電話 03-3429-1983 FAX 03-3427-2271 [編集発行人]校友会会長 三好吉清

母校の発展願い 絆を深める

初の校友会世界大会開催

「東京農業大学校友会世界大会2016 in Japan」(東京農業大学校友会主催)が9月23日、午前9時30分から東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂で、海外14支部、国内46支部の役員、一般参加者ら380人が参加して開かれた。大学創立125周年に合わせて開いたもので、校友会としては初めて。海外代表による支部活動紹介、大学側が農大の現状と今後の課題などについて講演。校友の「固い絆」を再確認するとともに、母校発展に向けて校友会の連携強化、それぞれの支部の友好親善を進めることを誓った。午後6時からは秋篠宮文仁親王殿下を招き、明治記念館で450人が集い大会祝賀会を開いた。24、25日には海外参加者らを中心に、山梨や静岡、神奈川県施設を視察した。

(8、9面に特集)

国内外から 380人参加 今こそ「農大精神」を

大会式典では校友会の三好吉清会長が「世界大会は2012年のパンアメリカン校友会参加以来、大規模な行事として開催された。大学は16万6000余の卒業生校友の母校愛に支えられて今日がある。母校の発展を願う同志として、質実剛健、自強不息(じきょうふくそく)、独立不羈(どくりつふき)の農大精神をもって、校友会支部での活動を強化して、



校友会が初めて開催した世界大会

母校が将来にわたってますます発展するための、大きな支えとなることを再確認していただくと期待する」とあいさつした。

祝辞として学校法人東京農業大学の大澤貴寿理事長は「卒業生が世界に羽ばたいたのは100年以上も前。その後、多くの志の高い卒業生が海外へ移住した。また、2006年には国際バイオビジネス学科を立ち上げ、海外からの留学生を積極的に受け入れてきた。『人物を世界の畑に還(かえ)す』の理念のもと、卒業生はそれぞれの国に戻り、大学や農業関連産業で広く活躍している。海外校友の活躍に心から敬意を表したい」とあいさつ。

東京農業大学・同短期大学の高野克己学長は「本学の教育研究の理念『実学主義』は125年の長きにわたって継承されている。次の創立150周年に向けて、東京農業大学はさらに進化し、グローバル社会で活躍する人材を輩出してい

きたい」と述べた。

海外代表あいさつでは、中・南米地域代表(アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、パラグアイ、ペルー)はブラジル支部長の原島義弘氏(原島義弘氏)が「今年度は、ブラジルへの日本移民108周年記念。この間、農大からは268人が移住した。現在の会員は116人。今日はブラジル支部から23人が出席した。支部は1969年に発足し、1979年にブラジル政府から社団法人の認可を受けた。亡くなられた校友の慰霊祭も1回行い、今年で44回を迎えた。年に2回、会報を発行している。支部として宿泊できる農大大会館も経営している。『固き絆』はロマンと苦悩の歴史だ。世界大会を機に母校、東京農大のさらなる繁栄を期待する。」(昭40拓)

弘氏(昭40拓)、北米地域代表(アメリカ、カナダ)はカナダ支部長の松尾健一氏(昭40拓)、アジア地域代表(中国、インドネシア、ミャンマー、モンゴル、台湾、タイ、フィリピン)はタイ支部長のソムチャイ・チャカカーン氏(平6院農博)が壇上に立った。

続いて、高野学長とフィリピン大学ロスバニョス校(UPLB)のフェルナン・ドC・サンチェスジュニア学長(平10院生博)が基調講演した。高野学長は「創立125周年を迎えて、世界をつなぐ架け橋」と題し講演。「単科大学から総合大学へ、生産科学から生命科学へと、大学は展開している。『人物を畑に還す』の理念を基に、教育・研究では『地域社会と世界に貢献』を期す」と述べた。

今年度は、ブラジルへの日本移民108周年記念。この間、農大からは268人が移住した。現在の会員は116人。今日はブラジル支部から23人が出席した。支部は1969年に発足し、1979年にブラジル政府から社団法人の認可を受けた。亡くなられた校友の慰霊祭も1回行い、今年で44回を迎えた。年に2回、会報を発行している。支部として宿泊できる農大大会館も経営している。『固き絆』はロマンと苦悩の歴史だ。世界大会を機に母校、東京農大のさらなる繁栄を期待する。」(昭40拓)

「『学術貢献』『教育貢献』が求められる。2019年に小学校を開校する。地球と人類の未来を支える農の心を育む。学園化による小中高大の連携を進める。東京農大NEXT125では、農業の教育研究の国内・世界の拠点としたい」と述べた。サンチェス学長は「私の日本 過去、現在、将来」と題して講演。「UPLB学長と教授、そして東京農大のOBとして、東京農大から与えていただいたさまざまな機会と指導していただいた先生の皆さまに心から感謝している。東京農大へ留学することは一生に一度の機会であり、有能でふさわしい学生にその機会を与えたい」と話した。

記念講演では、パンアメリカン代表の石川準二氏(昭35拓)が「パンアメリカン大会の経緯について、ブラジル代表の佐藤卓司氏(昭46拓)が「森を生かし、森を守るために」と題して海外現地での取り組みを報告。国際食料情報学部学生200人も聴講した。

この他、アトラクションとして、農友会マンドリン部が「蒙古放浪の歌」などを演奏、チャアリーダーが躍動感ある元気いっぱい演舞、全学応援団が大応援団旗を掲げる中、声を響かせながら「青山ほとり」などの演舞を披露し、参加者から盛大な拍手を浴びた。

1965年にカナダ・バンクーバーに農業移民として入り51年になる。高野校生の時に南米移住を決意し、農大に進んだ。農大では「コリラのごとき体力」「神のごとき愛」を学んだ。体力と精神力を基に50年間、がむしゃらに働きバラを栽培した。しかし、体調を崩し2年半前に農地を売り、43年間のバラ栽培を終えた。移民は100年といわれる。50年後、次の世代に、われわれが残した成果が実ることを期待する。」(昭40拓)

「稲穂になれよ」を原点に

その後、タマサート大学に入り、昨年末まで副学長を務めた。博士号を取得し、タイに帰る前に、教授が「机の上にあるもので欲しいものを一つ持っていきなさい」と言った。私は稲穂を持った。教授は「タイに帰ったら稲穂になれよ」と言った。私の原点だ。もう一度人生を巻き戻してこの大学に行くかと思われれば、東京農大に入って勉強したい。農大はこれからもアジアの発展のために頑張りたい。」(平6院農博)



原島義弘氏
今年度は、ブラジルへの日本移民108周年記念。この間、農大からは268人が移住した。現在の会員は116人。今日はブラジル支部から23人が出席した。支部は1969年に発足し、1979年にブラジル政府から社団法人の認可を受けた。亡くなられた校友の慰霊祭も1回行い、今年で44回を迎えた。年に2回、会報を発行している。支部として宿泊できる農大大会館も経営している。『固き絆』はロマンと苦悩の歴史だ。世界大会を機に母校、東京農大のさらなる繁栄を期待する。」(昭40拓)



松尾健一氏
1965年にカナダ・バンクーバーに農業移民として入り51年になる。高野校生の時に南米移住を決意し、農大に進んだ。農大では「コリラのごとき体力」「神のごとき愛」を学んだ。体力と精神力を基に50年間、がむしゃらに働きバラを栽培した。しかし、体調を崩し2年半前に農地を売り、43年間のバラ栽培を終えた。移民は100年といわれる。50年後、次の世代に、われわれが残した成果が実ることを期待する。」(昭40拓)



タイ支部長 ソムチャイ・チャカカーン氏
東京農大に1985年に短期大学に入学し、大学院を含めて9年間学んだ。その後、タマサート大学に入り、昨年末まで副学長を務めた。博士号を取得し、タイに帰る前に、教授が「机の上にあるもので欲しいものを一つ持っていきなさい」と言った。私は稲穂を持った。教授は「タイに帰ったら稲穂になれよ」と言った。私の原点だ。もう一度人生を巻き戻してこの大学に行くかと思われれば、東京農大に入って勉強したい。農大はこれからもアジアの発展のために頑張りたい。」(平6院農博)

海外代表あいさつ(要旨)

ブラジル支部長 原島義弘氏

カナダ支部長 松尾健一氏

タイ支部長 ソムチャイ・チャカカーン氏

平成28年度通常総会

事業計画予算など承認
全国から代議員216人が出席

平成28年度東京農業大学校友会通常総会が、5月20日、東京・世田谷キャンパスの東京農大百年記念講堂で開かれた。全国から代議員216人(委任状38)が出席した。平成27年度事業報告・決算報告、28年度事業計画・予算案などが全会一致で承認された。

主催者を代表して三好吉清会長があいさつ、学校法人東京農業大学の古谷勇治常務理事・法人本部長、東京農業大学の新部昭夫副学長が来賓として出席した。

議長の岡山県支部長の赤澤猛氏(昭44農)を選出し、議事録署名人に石川浩一氏(昭56農)、緒方和彦氏(昭63林)を指名し議事に入った。議案は5議案あり、小野中二常任理事(事務局長)が説明した。

第1号議案「平成27年度事業報告並びに決算報告の承認に関する件」については、説明後、福浜満代表監事が監査報告を行い、異議なく承認された。

第2号議案「基本金特別会計から一般会計への繰入額の承認に関する件」は、「東京農業大学国際センター建設事業資金への募金(3000万円)」「大学創立125周年記念式典参加経費(300万円)」「校友世界大会2016 in Japan開催費(300万円)」の3件。総額6300万円を特別会計から一般会計予算に繰り入れることについて説明し、異議なく承認された。

第3号議案「平成28年度事業計画並びに収支予算の承認に関する件」では、「大学の発展方向に対する協力と支援」「大学創立125周年記念の周年事業への組織的な協力」「都道府県支部および海外支部との連携強化と諸活動への支援」などの基本方針を提案。「地域後継者推薦入試への協力では本制度の趣旨の徹底を図ること」「会員名簿の原簿整備と利活用を図る」との説明があり、異議なく承認された。

第4号議案「海外支部設立の承認に関する件」では「モンゴル支部」「ミャンマー支部」「インドネシア支部」「ペルー支部」の設立が報告され、異議なく承認された。

第5号議案「平成28年度熊本地震への義援金の承認に



代議員216人が出席した通常総会

関する件」では、校友会熊本県支部に200万円を支出する提案があった。三好会長が「一般会計の準備費から支出し、使途は県支部に一任」と説明し、異議なく承認された。

総会終了後、三好吉清会長から、東京農業大学の高野克己学長に国際センター事業資金の募金3000万円の目録が手渡された。また、校友会熊本県支部の阿曾田清支部長に、熊本地震

報告事項として①東京農業大学創立125周年記念式典および祝賀会②東京農業大学校友世界大会2016 in Japan③株式会社社農大常務松第33期営業報告④有限会社社農大桜丘第16期営業報告について説明した。



熊本地震義援金を受け取る阿曾田氏

義援金200万円の目録が手渡された。阿曾田氏は、盟友の被害調査を見た上で、大切にしたい。支部として皆さんにお礼したい。心から感謝します」とあいさつした。

平成27年度 活動実績(抜粋)

1. 会員および準会員の状況

正会員 16万2,955人(平成28年2月現在) 前年同期 15万9,497人
準会員 1万2,789人(平成28年2月現在) 前年同期 1万2,903人

2. 校友会本部と支部との連携強化と支援・活性化対策

- (1)都道府県支部総会、支部教職員部会および支部女性部会の開催
①平成27年度校友会支部総会が東京都支部ほか43支部で開催。本部役員が出席、校友会活動の近況などについて報告するとともに、参加者と校友会活動の課題などについて意見交換。
②校友会支部教職員部会は、国内37支部で設置。平成27年度は青森県支部教職員部会ほか24支部で総会を開催。
③校友会支部女性部会は、国内13支部で設置。平成27年度は群馬県支部女子部会ほか7支部で総会を開催。
- (2)全国教職員部会連絡協議会(支部教職員部会連合)の設立
平成27年11月30日、全国教職員部会連絡協議会設立総会を開催。全国教職員部会連絡協議会規約の制定、同連絡協議会会長の選任、同連絡協議会役員選任、平成27年度事業計画ならびに収支予算を承認
- (3)ブロック会議、全国支部長会議の開催
大学創立125周年記念事業資金募金の目標達成のための方策、地域後継者推薦の課題、校友会本部の諸活動に対する提案・要望などについて協議・検討

3. 大学との連携強化

- (1)東京農業大学創立125周年記念募金事業への協力
- (2)東京農業大学スポーツサポート募金への協力
- (3)地域後継者推薦への協力
- (4)第15回東京農大ホームカミングデー(親子3代特別表彰)への協力・参加
- (5)東京農大経営者フォーラムなど大学行事への協力・参加

4. 会員名簿の原簿整備

- (1)会員名簿原簿の整備
- (2)会員名簿支部別リストの配布
- (3)校友会会員名簿管理規程の運用

5. 広報活動

- (1)校友会ニュースおよび世田谷通信の発行。
校友会ニュース「第117号」(4月25日付・9万2,500部)、「第118号」(10月25日付・9万5,000部)を発行、会員に情報提供。世田谷通信「第53号」(8月5日付・2,000部)、「第54号」(12月25日付・800部)を発行。
- (2)東京農業大学校友会ホームページで情報の提供

6. 準会員への支援

- (1)東京農業大学農友会に対する助成金の交付
- (2)東京農業大学農友会所属団体などへの支援
- (3)東京農業大学農友会激励懇親会の開催
- (4)卒業生(新会員)への記念品の贈呈

平成28年度 活動計画(抜粋)

1. 基本方針

- (1)大学の発展方向に対する協力と支援
- (2)大学創立125周年記念の周年事業への組織的な協力
- (3)都道府県支部および海外支部との連携強化と諸活動への支援
- (4)大学および校友会情報の会員への提供の充実
- (5)校友会会員名簿の管理の適正化
- (6)グリーンアカデミーホール(校友会館)の管理の充実と利用の促進

2. 事業活動

- (1)通常総会、役員会(理事会、監事会および常任理事会)、ブロック会議、全国支部長会議、全国教職員部会連絡協議会を開催。
- (2)東京農業大学校友世界大会2016 in Japanの開催。

3. 大学との連携強化

- (1)東京農業大学創立125周年記念事業資金など募金への協力
- (2)東京農業大学創立125周年記念事業への協力・参加

4. その他、例年通りの活動を積極的に展開

校友会平成27年度収支報告

I 平成27年度 一般会計収支決算書	
収入総額	105,791,050 円
支出総額	94,132,340 円
差引残高	11,658,710 円
次年度繰越金	11,658,710 円
II 平成27年度 予納金特別会計収支決算書	
収入総額	384,212,500 円
支出総額	83,575,000 円
差引残高	300,637,500 円
III 平成27年度 基本金特別会計収支決算書	
収入総額	298,018,425 円
支出総額	0 円
差引残高	298,018,425 円
IV 平成27年度 スポーツ振興基金特別会計収支決算書(会計廃止)	
収入総額	12,579,858 円
支出総額	12,579,858 円
次年度繰越金	0 円
V 平成28年度 一般会計収支予算書	
収入総額	168,673,710 円
支出総額	168,673,710 円
差引残高	0 円

本日ここに、平成28年度東京農業大学校友会通常総会を開催致しましたところ、代議員各位には、全国各地からご出席をいただき、このように盛大に開催できますことを心より厚くお礼申し上げます。本日は、ご来賓として、学校法人理事長の大澤貫寿先生、大学学長の高野克己先生、副学長の高野昭夫先生、学校法人常務理事の古谷勇治さまにご臨席をいただきま

す。心より厚くお礼申し上げます。まず冒頭、このたびの平成28年度熊本地震でお亡くなりになられた方々ならびに家屋などに被害に遭われました皆さまに、謹んで心からお見舞い申し上げます。

さて、母校は大澤理事長、高野学長の強いリーダーシップのもと、わが国の将来を見据えた学部・学科の改組、教育の充実や学生支援の強化、社会貢献の展開など、大学改革に積極的に取り組んでおられます。校友会といたしましても、母校の、この輝かしい歴史と実績を踏まえ、16万6000有余名となった校友ともども、大学のさらなる発展に向かって、一層のご支援ご協力をしていかなければならないと思っております。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会通常総会 あいさつ 要旨

◆ 校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと

五つ目は、校友会準備会である在学生への支援であります。校友会は、例年通り、在学生の課外活動などを支援していく予定であります。特に、箱根駅伝に代表される農大スポーツの強化については、全国の多くの支部から強い要望があり、先の支部長会議において、大学から心強い決意の回答を得たところであり

ます。また、OBの活躍ですが、大相撲前頭の正代関の活躍は、毎場所、私たちを楽しませてくれます。幕下の新鋭、小柳関も同様です。最後になりましたが、母校と校友会の発展のために、皆さまが健康で明るく、また楽しく、活躍されますことを心からご祈念申し上げます。

三つ目は、東京農業大学

校友会総会が、百周年記念講堂で開催されますこと、心からお祝い申し上げます。明日は、125周年記念式典が開催されます。平成24年から募金活動に協力いただきありがとうございます。引き続きご支援をお願いいたします。

125周年の歴史を振り返ると、明治24年に、本学の基礎となる徳川育英会育英農学科が設置されました。その後、常磐松時代の全てを焼失し、戦後、世田谷の地に移転。農学を全て網羅する大学となりました。多くの方に支援を受けてきました。そういう意味では、私どもにとって125周年は感謝の日です。その前の100周年、70周年とありますが、大学の歴史

がきちっと記録に残っているのは70年史からです。70年史は三浦肆玖楼学長（第5代）の時代です。卒業生として初めての学長ですが、任期を全うすることができず、急逝されました。90年、100年はご承知の通りです。

校・東京農業大学は、

明治24年、徳川育英会

によって創立され、本年、めでたく創立125周年を迎えられました。卒業生校友として、誠に喜ばしく、16万6000有余名を代表して、心よりお祝い申し上げます。明日は、大学主催の125周年記念式典、祝賀会などが盛大に開催される予定となっております。私ども校友会代議員も参加させていただきます。お祝いしたいと思っております。

校友会の総会も、年々盛会になってまいりました。ひとえに、皆さま方のご支援ご協力のたまものであり、また、校友の皆さまが

いかに母校と校友会への関心が深いかを示すものとして、大変心強く、また喜ばしく思っております。この

場をお借りいたしました。心より感謝申し上げます。次年度、代議員各位には、全国

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

ます。



東京農業大学校友会会長 三好 吉清

をいただくこと、深く感謝申し上げます。校友会本部として、本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

二つ目は、地域後継者推薦入試についてです。この制度は農大独自の制度であり、卒業後は、地域に戻り地域の後継者となる

ことが制度の趣旨であります。平成29年度入試からは、推薦条件の一部に変更があるようですが、校友会といたしましては、与えられた制度の枠組みの中で、大学に協力申し上げるとの基本的考え方で、本年度も学生の推薦をたまりたいと思っております。

三つ目は、東京農業大学

校友会総会が、百周年記念講堂で開催されますこと、心からお祝い申し上げます。明日は、125周年記念式典が開催されます。平成24年から募金活動に協力いただきありがとうございます。引き続きご支援をお願いいたします。

125周年の歴史を振り返ると、明治24年に、本学の基礎となる徳川育英会育英農学科が設置されました。その後、常磐松時代の全てを焼失し、戦後、世田谷の地に移転。農学を全て網羅する大学となりました。多くの方に支援を受けてきました。そういう意味では、私どもにとって125周年は感謝の日です。その前の100周年、70周年とありますが、大学の歴史

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

二つ目は、地域後継者推薦入試についてです。この制度は農大独自の制度であり、卒業後は、地域に戻り地域の後継者となる

ことが制度の趣旨であります。平成29年度入試からは、推薦条件の一部に変更があるようですが、校友会といたしましては、与えられた制度の枠組みの中で、大学に協力申し上げるとの基本的考え方で、本年度も学生の推薦をたまりたいと思っております。

三つ目は、東京農業大学

校友会総会が、百周年記念講堂で開催されますこと、心からお祝い申し上げます。明日は、125周年記念式典が開催されます。平成24年から募金活動に協力いただきありがとうございます。引き続きご支援をお願いいたします。

125周年の歴史を振り返ると、明治24年に、本学の基礎となる徳川育英会育英農学科が設置されました。その後、常磐松時代の全てを焼失し、戦後、世田谷の地に移転。農学を全て網羅する大学となりました。多くの方に支援を受けてきました。そういう意味では、私どもにとって125周年は感謝の日です。その前の100周年、70周年とありますが、大学の歴史

がきちっと記録に残っているのは70年史からです。70年史は三浦肆玖楼学長（第5代）の時代です。卒業生として初めての学長ですが、任期を全うすることができず、急逝されました。90年、100年はご承知の通りです。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

二つ目は、地域後継者推薦入試についてです。この制度は農大独自の制度であり、卒業後は、地域に戻り地域の後継者となる

ことが制度の趣旨であります。平成29年度入試からは、推薦条件の一部に変更があるようですが、校友会といたしましては、与えられた制度の枠組みの中で、大学に協力申し上げるとの基本的考え方で、本年度も学生の推薦をたまりたいと思っております。

三つ目は、東京農業大学

校友会総会が、百周年記念講堂で開催されますこと、心からお祝い申し上げます。明日は、125周年記念式典が開催されます。平成24年から募金活動に協力いただきありがとうございます。引き続きご支援をお願いいたします。

125周年の歴史を振り返ると、明治24年に、本学の基礎となる徳川育英会育英農学科が設置されました。その後、常磐松時代の全てを焼失し、戦後、世田谷の地に移転。農学を全て網羅する大学となりました。多くの方に支援を受けてきました。そういう意味では、私どもにとって125周年は感謝の日です。その前の100周年、70周年とありますが、大学の歴史

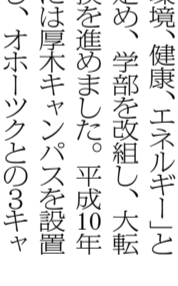
がきちっと記録に残っているのは70年史からです。70年史は三浦肆玖楼学長（第5代）の時代です。卒業生として初めての学長ですが、任期を全うすることができず、急逝されました。90年、100年はご承知の通りです。



学校法人東京農業大学理事長 大澤 貫寿

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。



東京農業大学学長・同短期大学部学長 高野 克己

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

校友会は、平成27年度におきましても大学ならびに一つ目は、125周年記念事業資金の募金です。平成24年度の全国支部長会議で対応を協議、校友会組織一丸となって、この募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。その後、平成25年度通常総会において、都道府県別の目標を決定し、募金活動をスタートしました。3月末の大学全体募金実績は、2億7484万円となっております。

校友会は、組織目標額2億円を掲げ、この間、募金活動を推進し、3月末実績は1億7863万円、達成率89%であります。経済情勢が思わしくない中で、校友会員に対する募金の周知などについて、ご苦慮をいただきましたこと深く感謝申し上げます。なお、校友会本部としての本件に対する対応については、後ほど、ご提案させていただきますのでよろしくお願いたします。

表彰された親子3代卒業生ら



ホームカミングデーに集う

母校の現状つぶさに 親子3代卒業生5組を表彰

第16回ホームカミングデーは、創立125周年記

念式典に併せて行われた。今年度は校友会支部から推

薦された、5組の親子3代卒業生が表彰された。

平成28年度 親子3代卒業生表彰者

代目	氏名	卒年	学科	住所
1	石井 正(物故者)	昭27	短期大学醸造科	(故人)
2	石井 隆之	昭57	農学部醸造学科	茨城県
3	石井 美紀	4年生	応用生物科学部醸造科学科	茨城県
1	黒田 和雄	昭38	農学部林学科	宮崎県
2	黒田 仁志	平02	農学部林学科	宮崎県
3	黒田 真峰	2年生	地域環境科学部森林総合科学科	東京都
1	小林 順一	昭31	農学部農学科	山梨県
2	小林 修	昭59	農学部農業経済学科	山梨県
3	小林 修太郎	2年生	国際食料情報学部食料環境経済学科	東京都
1	柴田 悦雄(物故者)	昭31	農学部緑地学科	(故人)
2	柴田 康雄	平01	農学部造園学科	東京都
3	柴田 裕貴	4年生	地域環境科学部造園科学科	東京都
1	平野 昇司	昭36	農学部造園学科	愛知県
2	平野 恭子	平01	農学部造園学科	愛知県
2	平野 耕治	平11	農学部造園学科	愛知県
3	平野 友佳鈴	3年生	地域環境科学部造園科学科	東京都

ホームカミングデーは、卒業生に実際にキャンパスに足を運んでもらい、母校の現状や進化した母校を再認識してもらい、卒業生と大学との新しいネットワークづくりに役立てようとする年開かれています。式典は百周年記念講堂で行われ



校友が出店した物産即売会が人気

た。高野克己学長が親子3代卒業生に表彰状を手渡した。表彰された5組を代表して昭和31年に農学部農学科を卒業した小林順一さんがお礼のあいさつをした。なお、祝賀会・ホームカミングデー懇親会会場周辺で物産即売会が開かれた。即売会には学内で生産されたものの他、全国の校友が持ち込んだ農産物や加工品などが販売された。テントの露店10店舗にはホームカミングデーなどに参加した校友らが集まり、試食をしながら物産を買い求めている。

高野克己学長が親子3代卒業生に表彰状を手渡した。表彰された5組を代表して昭和31年に農学部農学科を卒業した小林順一さんがお礼のあいさつをした。なお、祝賀会・ホームカミングデー懇親会会場周辺で物産即売会が開かれた。即売会には学内で生産されたものの他、全国の校友が持ち込んだ農産物や加工品などが販売された。テントの露店10店舗にはホームカミングデーなどに参加した校友らが集まり、試食をしながら物産を買い求めている。

東京農大創立125周年を祝う

16万人以上の卒業生を輩出した母校、東京農業大学創立125周年記念式典と関連行事が5月21日、世田谷キャンパスで催された。各地の校友をはじめとして、800余人が参加、節目に当たって農大の新たな第一歩に期待を寄せていた。客員教授でもある秋篠宮殿下もご臨席され、祝意を示した。また、記念式典に併せて同会場でもホームカミングデー式典が開かれ、親子3代卒業生の5組を表彰した。



16万人以上の卒業生を輩出した母校、東京農業大学創立125周年記念式典と関連行事が5月21日、世田谷キャンパスで催された。各地の校友をはじめとして、800余人が参加、節目に当たって農大の新たな第一歩に期待を寄せていた。客員教授でもある秋篠宮殿下もご臨席され、祝意を示した。また、記念式典に併せて同会場でもホームカミングデー式典が開かれ、親子3代卒業生の5組を表彰した。



800人余りが農大の新たな進化に期待を寄せた創立125周年式典

新たな第一歩に期待

秋篠宮殿下もご臨席 式典に校友ら800人

125周年記念式典は百周年記念講堂で行われた。ホームカミングデーと併せて行われたこともあり、多くの校友が参加。母校の発展を祝った。

式典では学校法人東京農業大学の澤田理事長があいさつした。澤田理事長は傘下の学校と教育・研究施設を紹介し、「総学生数

は2万5千名に及ぶ」とした。また「125周年は明日への第一歩を踏み出すとき」として「農学の教育・研究を通して人類と平和に貢献する」と強調した。

大学と短期大学の高野克己学長は、式辞で125年間の東京農業大学の歩みを振り返った。また「人物を畑に還(かえ)す」とい

う建学の精神、教育・研究の理念「実学主義」について説明し、「農学には社会を変えていく力がある。世界の人の期待を真正面から受け止め、150周年に向け、さらに進化していく」と決意を示した。また創立125周年記念事業として、世界の農学の拠点となる東京農業大学国際センターの建設

計画を披露。建設に当たったの校友ら関係者からの多大な寄付に対して感謝した。一方、臨席された秋篠宮殿下からお言葉を頂いた。また、森山裕農相(当時)、馳浩文科相(同)らが祝辞を寄せた。海外からは米国ミネソタ州立大学のルアナ・K・サイモン学長が壇上から祝意を表した。森山農相

わが国農林水産業の発展に大いに貢献してほしい」と東京農業大学に期待した。

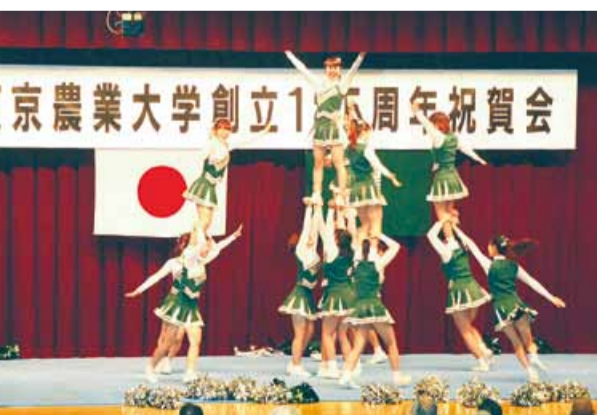
祝賀会では、ホームカミングデー懇親会と併催され、桜丘アリーナで行われた。125周年記念式典とホームカミングデーに参加した多くの校友が集い、母校と旧友の思い出話に花を咲かせた。

思い出話に花

祝賀会で応援団アトラクション

東京農業大学125周年祝賀会では、ホームカミングデー懇親会と併催され、桜丘アリーナで行われた。125周年記念式典とホームカミングデーに参加した多くの校友が集い、母校と旧友の思い出話に花を咲かせた。

大澤貫寿理事長、高野克己学長、校友会の三好吉清会長、米国・ミネソタ州立大学のルアナ・K・サイモン学長、国学院大学の坂口吉一理事長がたる酒の鏡割りをした。使用したのは校友が経営する山形県の酒造会社の銘酒「出羽桜」。多くの参加者に振る舞われた。アトラクションは、全学応援団吹奏楽部の演奏とチャリダー部の演技。また、全学応援団リーダー部の指導で校友らも参加した「青山ほどり」が思い出深い祝賀会に花を添えた。



祝賀会では応援団リーダー部の指導で青山ほどりと息の合ったチャリダーの見事な演技を楽しんだ



祝賀会では、三好会長が万歳を三唱して締め

125周年記念シンポジウム

農学部シンポ

「農の広がり、そして農学への期待

東京農業大学農学部は8月6日、神奈川県厚木市にある厚木キャンパスで「農の広がり、そして農学への期待」をテーマにシンポジウムを開き、地域活性化や食農教育、環境問題解決への役割が期待される農業や農学の役割を話し合った。シンポジウムは大学創立125周年記念事業の一環として、学部主催では初めて開催したもので、市民や学

生ら200人が参加した。開会あいさつで、同大の高野克己学長が「農学は生産に関わることに力を置いていたが、新たな展開に入っている。地域の活性化、命を支える農学をパネリストとともに考えたい」と述べた。シンポジウムのパネリストはタレントで女優の大桃美代子氏、ユニバーサルデザイン総合研究所の赤池学所長、福島県会津若松



今後の農学の役割を考えたシンポジウム

市商工課の吉川信副主幹、神奈川県JAあつぎ指導販売部の大矢和人部長、東京農大農学部の森田茂紀教授の5人。大桃氏は地元の新潟や福島で行っている米作りや子どもたちの農業を通じた交流活動を紹介し、「収穫すると「農業をやりたい」と子どもたちが言う。『地域って素晴らしい』という大人の姿を見せていくことが大事。農業には人を幸せにする力がある」と話した。赤池氏は「農産物ではなく、農芸品を戦略的に作っていく時代だ。高付加価値化を図れば、日本

の農業はさらに発展する余地がある」と強調した。大矢氏は年間250万人が訪れるJAの直売所「夢未市」の食農活動を紹介。「農業やJAへの理解が進み、生産者のやりがいにつながっている」と強調した。森田教授は「農学は変革の時を迎えている。生産技術の研究する農業生産から環境保全、持続性社会の実現を包含したものになっていく」と指摘した。パネリストによるディスカッションでは「生み出された食材をどう地域に流していくか。農のデザイン力

が必要」「食農体験で学生が加わると、子どもたちが喜ぶ。農大に期待している」などと発言。総合司会の長島孝行創立125周年記念事業委員会委員長（農学部教授）は「新しい農を展開していく」と締めくくった。

直木賞作家の佐々木謙氏が「私の榎本武揚」と題して基調講演。「幕末から明治維新にかけて、誰か一人の名で日本史を表すなら榎本しかない。蝦夷（今で共和国の建国から樺太・千島交換条約の締結など）の視野を持った人物として評価された」と述べた。ひ孫の榎本隆充氏は「子孫が語る榎本武揚」と題して特

別講演した。続いて、多摩大学大学院教授で原子力の専門家田坂広志氏が「武揚精神を受け継ぎ、日本の未来を切り開く」と題して基調講演した。田坂氏は「榎本から三つのこと（死生観、多重人格、志、使命感）をわれわれは学び、自分の人生に生かすことができる」と話した。

パネルディスカッションは、高成田享仙台大学教授の司会で、パネリストの中山昇一氏（歴史研究者）、山本厚子氏（フリージャーナリスト）、黒瀬秀久氏（東京農業大学教授）の3人が「榎本武揚の実業精神と『国民利福』」をテーマに行った。榎本武揚の近代から現代の発展に多大な影響を及ぼした社会的貢献を洗い出し、その内面としての榎本武揚の実業精神、国民利福の思想を浮き彫りにした。

最後に「東京農大に生きる榎本精神」と題し、高野克己学長が講演。「榎本武揚の実業思想を受け継ぎ、実学主義を教育理念に、農業を基盤にする大学では、世界でも最も規模の大きい大学となっている」「来春から生命科学部が始動し、この分野でも世界に貢献できる人材を育成していく」と話した。

役割と期待ますます大きく

森林総合科学科創設70周年記念式典



森林総合科学科の創設70周年記念式典

東京農業大学地域環境科 70周年記念式典が5月22日、世田谷キャンパスアカデミアセンター横井講堂で開かれた。記念式典では福永健司学長が昭和22年に創設した学科創設の専門部林業科から農学部林学科、そして地域環境科学部森林総合科学科まで70年を振り返るとともに展望について話した。来賓祝辞で、学校法人東京農業大学の大澤貫寿理事長（渡邊

文雄理事代読）が「21世紀の日本および森林の発展のため、森林総合科学科に寄せられる責務と同時に期待もまた大きい」と述べた。高野克己学長は、農大における森林総合科学科の持つ役割と期待を述べた。青木陽一郎教育後援会長は、現在の日本の森林の現状とそれを担う人材養成としての農大森林総合科学科の持つ使命についてメッセージを寄せた。三好吉清校友会会長は、日本の文化、風土、生活の基幹としての森林、林業の重要性と学科に寄せる期待を表明した。表彰式では福永健司学長から、歴代の学科長の榎垣宮都、杉浦孝蔵、佐藤明

の3氏に感謝状と記念品を手渡した。次に、歴代同窓会長を務めた宮司三年、関谷公男、矢野一臣、小野耕平の4氏に感謝状と記念品を手渡した。セレモニー終了後、学科の70周年の歩みとして制作した記念DVDを上映した。式典の最後に、農大全校応援団による学歌のリードがあり、「青山ほとり」では、ダイコンを杉苗に持ち替えての演舞を披露。中村幸人実行委員長が参加者への感謝と学科が進むべき道について決意を表明し終了した。

当日の来賓として、大日本山林会長の田中潔氏、日本森林技術協会理事長の福田隆政氏、日本森林学会代理の田中浩氏、日本木材学会長の鮫島正浩氏、日本木材加工技術協会長の服部順昭氏、日本木材保存協会

の農業はさらに発展する余地がある」と強調した。大矢氏は年間250万人が訪れるJAの直売所「夢未市」の食農活動を紹介。「農業やJAへの理解が進み、生産者のやりがいにつながっている」と強調した。森田教授は「農学は変革の時を迎えている。生産技術の研究する農業生産から環境保全、持続性社会の実現を包含したものになっていく」と指摘した。パネリストによるディスカッションでは「生み出された食材をどう地域に流していくか。農のデザイン力

が必要」「食農体験で学生が加わると、子どもたちが喜ぶ。農大に期待している」などと発言。総合司会の長島孝行創立125周年記念事業委員会委員長（農学部教授）は「新しい農を展開していく」と締めくくった。

直木賞作家の佐々木謙氏が「私の榎本武揚」と題して基調講演。「幕末から明治維新にかけて、誰か一人の名で日本史を表すなら榎本しかない。蝦夷（今で共和国の建国から樺太・千島交換条約の締結など）の視野を持った人物として評価された」と述べた。ひ孫の榎本隆充氏は「子孫が語る榎本武揚」と題して特

別講演した。続いて、多摩大学大学院教授で原子力の専門家田坂広志氏が「武揚精神を受け継ぎ、日本の未来を切り開く」と題して基調講演した。田坂氏は「榎本から三つのこと（死生観、多重人格、志、使命感）をわれわれは学び、自分の人生に生かすことができる」と話した。

来賓祝辞 (要旨)

東京農業大学校友会会長 三好 吉清

森林総合科学科創設70周年式典にお招きいただき、卒業生校友16万6000余名を代表して心からお祝い申し上げます。千葉県茂原市に誕生した林学科は、幾多の困難を乗り越えて本日に至り、これまで9000余名の卒業生を社会に輩出してまいりました。戦後の混乱期に開設され、激動の昭和時代を乗り越え、そして、平成の時代へと転換する中で、山あり

谷ありの70年だったと推察し、関係者各位には心から敬意を表します。日本は、世界で最も古い木造建築である奈良・法隆寺やその他の神社仏閣を見ても分かるように、古くから木を大切に、「木の文化」を継承してきました。4年後の東京オリンピック会場も木を使った「広く市民に開かれた、木と緑のスタジアム」が選定され、木の文化を世界にPRすること

と聞いています。まさに「専門家を育て、土に還（かえす）」という初代学長の横井時敬先生の実学教育を進められてこられました。「森造りは100年の計」とも言われています。今後とも大いに精進され、日本林業の発展と安全で強靱（きょうじん）な国土形成や循環型社会を形成するための人材育成に努め、東京農業大学の名声を高めるために、ますます発展することを祈念申し上げ祝辞といたします。

最後に「東京農大に生きる榎本精神」と題し、高野克己学長が講演。「榎本武揚の実業思想を受け継ぎ、実学主義を教育理念に、農業を基盤にする大学では、世界でも最も規模の大きい大学となっている」「来春から生命科学部が始動し、この分野でも世界に貢献できる人材を育成していく」と話した。

母校だより

授与 (順不動、敬称略)

- 【平成28年4月12日】
 - 東京農業大学名誉教授 岡島 秀治
 - 東京農業大学名誉教授 鈴木 敏郎
 - 東京農業大学名誉教授 岡田 早苗
- 【平成28年4月14日】
 - 東京農業大学名誉教授 小泉 幸道
 - 東京農業大学名誉教授 蓑茂 壽太郎
 - 東京農業大学名誉教授 小林 章
 - 東京農業大学名誉教授 増子 孝義

地域連携、研究交流を促進

独法、JA、企業と協定・覚書

独立行政法人国際協力機構 (JICA) と覚書を締結

本学は5月13日、世田谷キャンパス農大アカデミアセンターで独立行政法人国際協力機構 (JICA) と覚書を締結した。覚書は、JICAと東京農大が、大学院の学生を青年海外協力隊員および日系社会青年ボランティアとして派遣する事業に関し関係する事項について双方が合意することを確認するもの。今後、本学大学院は、長期履修制度を活用して、在学中にJICAと覚書を締結した。



JICAと覚書を締結

JICA青年海外協力隊員に派遣する取り組みを実施する。

JICAからは小川青年海外協力隊事務局長はじめ5人、本学からは高野克己学長はじめ8人が出席した。

国立遺伝学研究所と包括連携協定を締結

本学と大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 (静岡県三島市) は8月4日、本学の世田谷キャンパスアカデミアセンターで包括連携協定を締結した。



国立遺伝学研究所と包括連携協定を締結

本学は5月11日、世田谷キャンパスアカデミアセンターで、東京・世田谷目黒農業協同組合 (JA世田谷目黒) と包括連携協定を締結した。本学はJA世田谷目黒と連携しながら、都市農地の存続と環境保全に貢献している。具体的には、学生による援農や農業体験、土壌診断に基づく土

JA世田谷目黒と包括連携協定を締結

本学は5月11日、世田谷キャンパスアカデミアセンターで、東京・世田谷目黒農業協同組合 (JA世田谷目黒) と包括連携協定を締結した。本学はJA世田谷目黒と連携しながら、都市農地の存続と環境保全に貢献している。具体的には、学生による援農や農業体験、土壌診断に基づく土



協定を締結した本学とJA世田谷目黒関係者

ケンコーマヨネーズと包括連携協定を締結

本学は8月31日、ケンコーマヨネーズ株式会 (東京本社) 東京都杉並区



協定書を取り交わす高野克己学長とケンコーマヨネーズ炭井孝志社長

代表取締役社長 炭井孝志) と包括連携協定を締結した。

協定で①食品および関連産業の活性化に向けた連携②食品開発への支援を通じた国際協力活動における連携③人材育成に関する連携④その他両者の協議により必要と認める連携を進める。これによって、食品および関連産業の活性化に貢献し得る活動を展開するとともに、食品開発への支援を通じた国際協力活動を展開すること、地球規模での食料・環境問題の解決に貢献することが目的。また、連携を通して国内外で活躍する人材育成に努める。



タマサート大学Lertpaitoon総長と高野学長

タイ国タマサート大学との学術交流協定を締結

タマサート大学と本学との学術交流協定の締結式が9月21日、本学世田谷キャンパスで行われた。締結式には、タマサート大学から12人、本学から13人が出席した。調印式では Sonkit Lertpaitoon 総長と本学高野克己学長が協定書に署名した。

東京農業大学が締結したその他の連携協定

(5~9月)

(月日は締結日、詳細は大学ホームページ参照)

- 5月12日 生物産業学部は、北海道斜網地区4町 (斜里町・清里町・小清水町・大空町) と包括連携協定を締結。本協定を通じて、5者の有する特徴を相互に活用することで、縮小する地方社会の地域再生および地域活性化に寄与する人材育成などの取り組みを図っていく。
- 6月6日 長崎県対馬市と産業振興・環境保全ならびに人材育成などに寄与することを目的として、包括連携協定を締結した。
- 6月17日 生物産業学部は、国立大学法人北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部および北方生物圏フィールド科学センターと連携協定を締結した。この協定は、3者間の協力関係・学術交流の促進と、相互の教育・研究の発展に寄与することを目的としている。
- 7月19日 長野県青木村と包括連携協定を締結した。今後、学生のフィールド研修をはじめ、留学生の短期研修プログラムの実習地としての受け入れ、村の特徴を生かした特産物の開発、中山間地域での農地有効活用の取り組みなどの活動をしていく。
- 7月26日 高知県津野町と包括連携協定を締結した。今後、本学との連携活動により農林業の技術支援や調査研究による産業振興などに関する連携事業の拡大 (特産物の開発販売、里山再生に向けたカリキュラム、農林業後継者育成、どぶろく特区の利用など) を図っていく。また、学生のインターンシップ受け入れなども実施していく。
- 7月28日 鹿児島県喜界町と喜界町における地域活性化と、本学における教育・研究の充実に寄与することを目的として包括連携協定を締結した。
- 8月3日 生物産業学部は、北海道北見市と地域産業活性化に関する協定を締結した。本協定を通じて、相互の発展に寄与するとともに、地域経済の一層の活性化に資するため協力していく。
- 9月9日 株式会社ブルックスホールディングスと包括連携協定を締結した。

学会賞など受賞者紹介

(詳細は東京農業大学HP (学術) 参照)

受賞名	受賞者名	受賞内容等
第66回日本木材学会 第56回学会賞を受賞	江口文陽教授 (森林総合科学科)	「食用・薬用きのこの生産技術の開発と薬理機能への応用」が評価された
第18回日本水大賞農林水産大臣賞を受賞	東京農業大学多摩川源流大学プロジェクト	日本水大賞委員会 (名誉総裁: 秋篠宮殿下) が、水循環の健全化に貢献するさまざまな活動を行っている学校や団体の活動を表彰するもので、東京農大の長年にわたる連携、地域での人材育成プログラムが高く評価された
やずや食と健康研究所2014年度助成研究MVP賞受賞	山根拓実助教 (食品安全健康学科) ら	山根拓実助教らの研究グループの研究テーマ「若年層における皮膚の状態と食生活状況および心身の健康との関連」が評価された
日本農芸化学会2016年度大会トピックス賞受賞	宮原瑞希さん (バイオサイエンス専攻博士前期課程2年)	時計遺伝子BMAI1が海馬ニューロンの形態をコントロールすることで、記憶想起 (思い出) を制御するメカニズムを発表した
国連大学がRCE GPPに対して、RCE Recognition Awardを授与		東京農業大学が実施してきたJICA草の根事業を中心としたRCE GPPの取り組みが評価された
日本食品保蔵科学会第65回大会奨励賞受賞	岡大貴助教 (食品加工技術センター)	「分子間相互作用に基づく乳タンパク質の製パン性改良機序の解明」が評価された
The XXVIIIth International Conference on Polyphenols ポスター賞受賞	檜谷昂さん (国際農業開発学専攻博士前期課程2年)	「Contribution of Polyphenol in Excreta of Terebralia palustris to Elution of Dissolved Iron in Mangrove Ecosystem」が評価された
第17回アジア・大洋州畜産学会若手研究者賞 優秀発表賞を受賞	田原岳さん (畜産学専攻博士前期課程2年)	「Evaluation of the genetic structure of a synthetic pig strain maintained for 17 years」が評価された
日本繁殖生物学会学会賞・学術賞を受賞	岩田尚孝教授 (畜産学科)	加齢が牛卵子に及ぼす影響とその制御方法に関する研究
第27回日本微量元素学会学術集会優秀演題賞を受賞	塙信彰学術研究員	「鉄欠乏状態がビタミンD水酸化酵素CYP27の細胞内動態に及ぼす影響」が評価された
The 8th Conference on Monitoring and Management of Visitors in Recreation and Protected Areas (MMV8)ポスター賞受賞	下嶋聖助教 (環境緑地学科)	「The environmental impact of mountaineering in the Mt. Everest region」が評価された

(平成28年4月~9月30日までの公表分を掲載)

東京農大経営者フォーラム2016ご案内

今年も6人を表彰
11月25日世田谷に来場を
東京農業大学創立125周年事業の一環として

東京農大経営者フォーラムとは

学で農林業、食品産業をはじめとする実業界で活躍している経営者を養成することは、「人物を畑に還(かえ)す」という教育理念を

日程表: 日時●平成28年11月25日(金) 13時から
場所●東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂
主催●東京農業大学、東京農業大学短期大学部



養老孟司氏



矢嶋俊介学部長

養老孟司東京大学名誉教授が「大学で学ぶということ、生命科学を探究すること」と題して基調講演。

矢嶋俊介氏(東京農業大学生命科学部)が学部の内容や学部が目指す教育研究について説明。「生命科学の発展」をテーマに

キックオフ・シンポに500人



学科の特徴や研究の意義を示したパネルディスカッション

先端研究内容の一端を紹介した。バイオサイエンス学科は松本隆氏(農研機構次世代作物開発研究センター)が「探す・選ぶ・作る」

来年4月に期待の船出

新「生命科学部」アピール

東京農業大学は10月16日、東京都千代田区のイノホールで「生命科学部キックオフ・シンポジウム」を開いた。

2017年度(平成29年度)一般入試 日程

Table with columns: 出願期間, 試験日, 科目, 学部, 学科, 試験会場, 合格発表, 入学手続期間. Includes '全学部統一型' and '学部志望型'.

- 受験日自由選択制
● 同一学科複数日受験制
● 学部学科閉眼制

Table with columns: 出願期間, 試験日, 科目, 学部, 学科, 試験会場, 合格発表, 入学手続期間. Includes '学部志望型'.

- 1学部出願制
● 学业内併願制

2017年度(平成29年度)推薦入試 日程

Table with columns: 学部・学科, 出願期間, 試験日, 試験会場, 合格発表, 入学手続期間. Includes '推薦入試' and '複本武揚フロンティア入試'.

- 出願資格 高等学校卒業見込み、卒業などの大学入試資格を有すること
入試制度 Aタイプ[一般エントリー] Bタイプ[センター試験利用(2科目)エントリー]

2017年度(平成29年度)センター試験利用入試 日程

Table with columns: 学部, 科目, 出願期間, 試験日, 合格発表, 入学手続期間.

- お問い合わせ先
■世田谷キャンパス(応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部)
■厚木キャンパス(農学部)
■オホーツクキャンパス(生物産業学部)

母校の誇りを胸に刻む

校友世界
大会特集



東京農大125周年と校友世界大会を記念して成勢よく鏡割り

大会祝賀会

旧交を温め懐かしく語らう スピーチで海外支部活動報告

「東京農業大学校友世界大会2016 in Japan」の大会祝賀会が9月23日、東京都港区の明治記念館で行われた。東京農大客員教授でもある秋篠宮殿下を招き、大会への参加者ら450人余りの世界各地の校友らが旧交を温め、また海外の支部長らが登壇して5分間スピーチ。支部の活動と支部校友の活躍を報告した。

校友会の外岡副会長が「校友の皆さまは、それぞれの時代に学び、青春を謳歌した思い出が心にあることを見つけていただけたと思う。大会は校友のさらなる発展を確信できるといふ機会となった。祝賀会でも校友間の交わりをさらに深めてほしい」とあいさつした。

校友会の三好吉清会長、学校法人東京農業大学の大澤貴寿理事長、東京農業大学・同期大学部の高野克己学長、校友会オフィシャル支部長の五十嵐司さん、同オフィシャル支部長のフジノラC・サンチェスさんが校友が醸造元「出羽桜」のこもたるを鏡割りして出席者に振る舞った。大学の幹部昭夫副学長が言葉を切り乾杯した。

「東京農業大学校友世界大会2016 in Japan」の大会祝賀会が9月23日、東京都港区の明治記念館で行われた。東京農大客員教授でもある秋篠宮殿下を招き、大会への参加者ら450人余りの世界各地の校友らが旧交を温め、また海外の支部長らが登壇して5分間スピーチ。支部の活動と支部校友の活躍を報告した。

た農大パーには校友が醸造元の日本酒の南部美人。全国の学生で屈指の社交ダンス研究部の演奏と、全学応援団リーダー部の「家古放浪の歌」を奏した。さらに同リーダー部とチアリーダー部がリードし、参加者全員で学歌を声高らかに斉唱した。

国際農業開発学科 創立60周年記念あいさつ(要旨)



国際農業開発学科長 入江 憲治

科から数えて、今年が60周年になる。60年の歴史の中で世界中から数千人の卒業生を送り出した。昭和30年代には海外拓殖を推進し、

北米と中南米に多くの海外移住者を送り出した。これまで、アメリカ大陸には300人以上の本邦卒業生が移住し、その半分以上は本学科の卒業生。実習教育重視の姿勢は、当時から現在も引き継がれている。昭和40年に東南アジアやアフリカ諸国の経済開発支援のため青年海外協力隊が発足。ここに本校は農学系大学では最も多くその人材を輩出しているが、その多くは国際農業開発学科(農

野セシリア▽フジノラC▽サンチェス▽メキシコ▽黒田知世▽アメリカ▽福田晃(同)▽中国▽曹斌(同)▽インドネシア▽アダン(同)▽ミャンマー▽サイロン▽トモモンゴル▽スタンビ▽バンパス▽スリマ東京部▽本岡(同)

友と恩師と感動の再会

農場、キャンパスつづらこ



日本のブドウ栽培と西欧の違いを学ぶ(山梨県甲州市で)

日本農業の先端をこの目で

世界大会に参加した海外校友を中心とした30人余りの9月24、25の両日、東京農大の農場などを視察研修した。参加者は、母校の先端的な農場やキャンパスに誇りを持つ、校友が経営するワインの醸造会社に関心を寄せていた。



伊勢原農場で母校の先端技術の説明を受ける

部長が歓迎のあいさつをした。また、静岡県富士宮市の東京農大富士農場を視察した。同農場は標高820mあり、主に牛、豚、家畜などを飼育して実習や研究に利用されている。この日はあいにくの雨で屋外での視察はできなかったが、同農場の野口龍生副場長から説明聞き、牛舎を中心に視察した。2日目は神奈川県伊勢原市の東京農大伊勢原農場を視察した。同農場は厚木キャンパスから車で20分ほど行った大山・丹沢山麓の台地である。野菜、花、果樹など園芸を中心とした農場。参加者は先端栽培技術などの説明を受けた。幅広い分野をカバーする同農場の役割に感心していた。一方、厚木キャンパスを訪れて農学部的小川博学部長から学部とキャンパスの説明を受けた。また、校友会神奈川県支部の加藤恒雄支部長が歓迎のあいさつをした。同キャンパスでは、母校の充実した教育研究施設に思いを新たにしていた。

思い出を写真でつづる

大会、祝賀会、視察研修と3日間にあわせた「東京農業大学校友世界大会2016 in Japan」。世界に広がる校友の活躍を目的に当たらにできた。旧交を温め、学び謳歌した青春がよみがえった。参加した校友は各国へ帰り、母校を誇りに絆を深める。大会関連イベントの思い出を写真でつづる。

世界から集まった大会参加者



大会

会場が一体になった全学応援団の「青山ほとり」の演技

アトラクションで参加者を魅了する農友会マンドリン部の演奏



祝賀会



華やかな社交ダンスに酔いしれた



富士農場では牛舎の見学



祝賀会で開会あいさつを聞く参加者

伊勢原農場には南洋植物の栽培も

施設が整った厚木キャンパスを視察

視察



宿泊のホテルで恩師と林を酌み交わし情報交換会



魅力を発見！ キャンパス見学会

Campus now

世田谷キャンパス 各学科が特色アピール

世田谷キャンパスでは8月7、8日と2日間、本学最大の受験生向けイベント、オープンキャンパスが開かれた。約1千人が来場した。

主なプログラムは、各学科の担当教員による30分の「模擬講義」や、食品加工技術などを体験する「分野別模擬実習」、一般入試の説明や推薦入試合格者の体験談が聞ける「入試対策講座」、各学科が学科のカラーを前面に押し出して、来場者に学科紹介をする「学科別ナビ体験」など。

中でも「学科別ナビ体験」では、各学科がその特色を来場者にアピールしていた。研究室への訪問や、実際に実験器具を扱う体験型のプログラム、植物を展示する視覚的なインパクトを重視した学科もあった。来



学科の特色を知ることができた学科別ナビ体験



大勢の受験生が聞き入った入試対策講座

イベント運営では、多くの学生スタッフが中心となって対応した。生き生きと自分の学科を紹介する先輩たちをみて、受験生は「農大生の自分をイメージできる」といい機会になった。

平成28年度 農学部シンポジウムも同時開催



農場見学ツアーで説明を聞く参加者

新企画として各学科を30分で紹介する「学科ガイダンス」を実施し、盛況だった。

昨年10月に完成した学生会館1階アグリラウンジを休憩場所（バーラ実学）とし、農学科と

厚木キャンパスのオープンキャンパスは8月6、7日に開かれ、2日間で合計2837人が来場した。6日には125周年農学部シンポジウムと小学生対象のダイコン収穫体験も実施し、卒業生や親子連れなどが多く参加した。

主なプログラムは、農学科、畜産学科、バイオセーフティ学科の各研究室に分かれて研究室や圃場（ほじょう）などを体験する「学科別ナビ体験」と、3学科の教員による25分の「模擬講義」を中心に、学科や研究内容の特徴をつかめる企画を実施した。

農学部伊勢原農場へマイクパスで送迎する農場見学ツアーも実施した。また、



研究室での体験授業

厚木キャンパス

オホーツクキャンパス 充実した環境を実感



学生スタッフがオホーツクキャンパスの魅力を変えた

協力で、オホーツク産の素材を使った「オホーツクスペシャルランチ」を提供。さらに、4学科の特徴的な魅力を体験する企画に多くの受験生が参加し、ネイチャーガイドの学生が案内するファントレール探索や、オホーツク臨海研究センターでの模擬実習、アイスクリームやヘアジェル加工体験、6次産業化や地方創成を考えるビジネスプランづくりを体験。参加者にオホーツクキャンパスの充実したフィールド環境を実感してもらった。最後は学生スタッフの「青山ほとり」で見送った。

オホーツクオープンキャンパスで7月30日、31日にオープンキャンパスが開かれた。全国から受験生や保護者が来場し、地域の全てがキャンパスを実感した。1、2年生と保護者向けに市内循環バスを運行し、学生が網走市民と一緒に斜面一面を花で彩った「はな・てんと」を観賞した。

東京農大アンテナショップ「笑友（えみゆう）」、網走の道の駅「流水街道網走」を巡り、地域とのコラボ商品や学生が考案した商品を紹介し、学生が地域で活躍している姿を披露した。



学生ネイチャーガイドのファントレール探索



講演するメンツェル氏とダルージオ氏

「食と農」の博物館調査・研究を踏まえて、6月1日から公開されていた東京農業大学創立125周年記念展示「ピーター・メンツェル&フェイス・ダルージオ 地球の記録 20年の写真展」持続可能な地球環境をもとめて」が9月25日に閉幕した。9月17日に、展示に関連した一大イベントとして記念シンポジウムを世田谷キャンパスアカデミアセンター横井講堂で開き、ピーター・メンツェル氏とフェイス・ダルージオ氏の両氏が来日した。

当日は初めに、メンツェル氏の世界観と彼の作品から提起される「食と環境」の問題をテーマに、高野克己学長、志和地弘信教授、吉野馨子教授、鈴野弘子教授、高橋信行准教授、山本祐司教授らが

調査・研究を踏まえて発表した。ピーター・メンツェル氏とフェイス・ダルージオ氏が登壇し、スクリーンに映し出された彼らの膨大な仕事の成果を見せながらプレゼンテーションした。

メンツェル夫妻が今回特に挙げたのは肥満と飢餓の問題だった。パプアニューギニアで出会った兄弟は共に栄養不足で、食事はわずかな収入から得たインスタントラーメン1袋。兄は乾麺、弟はスープのもとを食べていた。一方、アメリカでは、「死にそう」なほど多くの食べ物を口にしが、肥満に苦しむ人々がいる。夫妻は「人々に食料が行き渡らないのは政治的な要因が大きい」と指摘した。内乱状態にあるアフリカ

諸国を思い出すまでもなく、農地へのアクセスや輸送の安全が確保されない限り食料の増産や自給は求められない。また先進国の食品企業による途上国への進出は、先の

兄弟のように栄養の偏りをもたらすし、また大量のコーラを常飲するメキシコのように肥満を招くことにもつながる。

プログラムの最後に、諸先生とメンツェル夫妻を交えたディスカッションでは、アフリカの食料問題、栄養加工食品など、さまざまな話題が取り上げられた。そこにある人々の生活をそのまま被写体にし、食や環境などのテーマを独自の視点で捉え、世界的に活躍しているメンツェル夫妻と、「食・環境・農」を科学的・専門的に調査・研究する最高学府の研究者としての6人の先生方の、経験的知見と最先端の科学的知見とがクロスオーバーした。



福島県の農業復興へ新たな指標に

節足動物体内の放射性セシウム量の推移解明

国際農業開発学教授 足達太郎

研究を始めたわけ

平成23年3月、未曾有の大惨事となった東京電力福島第一原発事故の発生に、私は大きな衝撃を受けた。国民の一人として、この困難にあって微力ながら貢献したいと思ったが、実際には何もできなかった。せいぜいパソコンのスイッチを小まめに消すようにしたぐらいだ。

私の専門は昆虫学だが、放射線生物学を手掛けたことはなかった。たぶんこれ

から手掛けるにしても、福島現場へ単独で調査に行くつもりはなかった。そうした調査は、組織された研究者のチームがプロジェクトとしてやるべきことで、一大学教員の手には負えるものではないと思っていたからだ。

ところが、思いがけないことが起こった。ちょうど震災の翌年、卒業論文を指導することになっていたあの学生が、「被災地に貢献

できる研究をしたい。福島で昆虫の調査をさせてほしい」と申し出たのだ。私は彼の熱心さに打たれた。節電をするのもそろそろ面倒くさくなっていった怠惰な中年研究者の心を、若い学生の情熱が動かし、ささやかな研究チームが発足した。

とはいっても、放射線について私たちはまったくの素人。学内のアイソトープセンターに行き、「節足動物に含まれる放射性物質を測定するのに、どれくらい採集すれば良いのか」と

聞くと、「少なくとも1キログラム」という。これはかなりの量だ。バッタなら1000匹は必要だ。

「どんな虫を採集すれば良いのか」というのも問題だった。数を集めるため、真空吸引器という装置を持

ち込んだが、捕れるのはハエやウンカなど小さな虫ばかり。とうとう1キログラムも採集できるものではなかった。

調査方針が具体化したところで、今度は資金面の問題が生じた。当時、東京農業大学東日本支援プロジェクトのリーダーを務めていた門間敏幸教授(現名誉教授)に相談したところ、快く同プロジェクトからの援助を承諾してくれた。さらに、プロジェクトの予算で導入されたばかりの高感度の検出装置を使

用できることになり、虫を1キログラム集めなくても分析が可能となった。

その後4年間、調査は順調に継続し、復興に生かせる研究成果がある程度は挙げることができた。この間、

何人もの学生たちが福島での調査に参加してくれた。彼らの協力と、総合研究所やアイソトープセンターをはじめ学内関係者、福島の皆さんのご支援に感謝する。

そこで、福島県内の中山間地で節足動物を採集し、体内から検出される放射性セシウムの量の推移を調べた。すると、バッタとコオロギでは2012年から2014年にかけて、検出量は一貫して減少する傾向にあった。一方、同時期にジョロウグモからの検出量には、減少傾向は見られなかった。

雑草や枯れ草などバッタとコオロギの餌が豊富にある農地や住宅地周辺では、除染によって放射性セシウムが除去されたため、虫体内の蓄積量が減少したものと考えられる。これに対し、クモが餌とするハエ類などには、除染がなされていない山林や池などで腐植を食べて繁殖したものも含まれている。クモ体内の放射性セシウム量が低下しないのは、そうした餌を食べているからではないかと推測した。

本研究中、節足動物から検出される放射性セシウム量が中山間地の生態系における放射能汚染レベルを反映していることが示唆された。今後は除染効果を判定する指標として節足動物を活用していくことが期待される。

研究室紹介

31

森林からの産物の有効活用と産業振興のための実践科学

地域環境科学部森林総合科学科林産化学研究室 教授 江口 文陽

私の研究室では、林産製造学の基礎と応用を駆使して「森林からの天然物を有効的に利用する科学、森林資源の高付加価値化を図った製品開発」にターゲットを絞って研究を実施している。研究室の基幹となる学術の守備範囲は広い。「木材保存学」「木材化学」「きのこ学」「パルプ製紙工学」「応用薬理学」など農林工学分野から医療薬学分野までの研究手技手法を活用し、木材、木質資源、きのこ、ワサビ、山菜、タケノコ、精油成分などの理化学的特性を科学する。



研究室とNPO法人八丈島観光レクリエーション研究会との合同勉強会

木材防腐防虫性能の高度化技術の開発

森林が産する木材は、二酸化炭素を吸収固定して成長する。成長した老木は二酸化炭素の固定能力が低下することは言うまでもない。すなわち伐採適期となった樹木を製材活用することは、森林更新や環境保全のためからも不可欠だ。森林の環境保護のキーとなる学問が、木材を微生物や害虫(シロアリ)などの生物からの被害を防ぐ木材保存学だ。研究室ではヒトや環境に優しい天然物から調製した木材保存剤や抗菌と防虫作用を有する物質の開発とその作用メカニズムなどの研究を実施している。

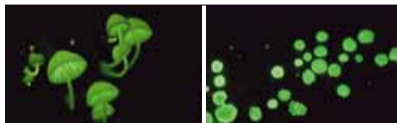
特用林産物の高付加価値化を目指した戦略研究

きのこなどの森林から生産される資源を特用林産物という。研究室ではきのこの品種を安定的に生産する技術の確立とともに、おがくずと栄養剤を混合した培地できのこを発生させる「菌床栽培」では、きのこの菌糸が成長する培地中に機能性を持つ天然物を添加して子実体(可食部)の栄養価を高める技術開発も行っている。これまでに安全で栄養素に富む食品製造工程で発生する残渣(ざんざ)を成長過程で取り込ませ、機能性やうま味を向上させる栽培法も発明した。例えば、健康食品であるクロレラ抽出残渣を利用した栽培では、アミノ酸やミネラルを多く含有するきのこ生産に成功。また、貝化石やカキ殻粉末を培地に添加した栽培では、カルシウムや鉄が多く含まれる機能性きのこの栽培法を確立した。

高付加価値化のきのこの生産を基盤として動物やヒト摂食試験なども産学連携で実施し機能性表示食品や「えのき氷」、「きのこ添加味噌(みそ)」なども開発した。

発光きのこや毒きのこを活用した産業振興への挑戦

きのこの中には、酵素の働きで発光するきのこが存在することが知られている。研究室では発光きのこの人



左:シイトモシビタケおよび右:エナシラシタケの発光メカニズムの解析を実施し、発光物質を用いた製品開発などにも着手している



ベニテングタケ(毒きのこ)の産生物質を用いた新規機能性物質の開発

工栽培に成功しており、これらのメカニズムを応用した工業製品創製を狙った研究を実施している。また、毒きのこが中枢神経に及ぼす影響を神経科学的なアプローチで解析、神経変性疾患などの予防と改善に寄与する新薬開発なども視野に実験を推進している。

市民、試験機関、産業界との連携による研究と教育の推進を目指して

大学院生や学生のコミュニケーション能力の向上を目的として特定非営利活動法人(NPO法人)、試験機関、企業との連携事業を実施している。NPO法人八丈島観光レクリエーション研究会との交流事業では、八丈島町の小中高生を東京農業大学に招いて実験合宿、院生と学生が八丈島に訪問しての自然観察や研究報告などを実施している。株式会社日健総本社の熊本県のきのこの森、石垣島の微細藻類生産基地、群馬、新潟、宮城の試験水田では天然物を活用した土壌改良材を用いて稲の生育試験などを共同で実施、研究員と院生および学生との研究交流事業が実施され、成果報告会や学会発表へと活動は広がりを見せている。

研究室活動を通しての実学教育は大きく学生の成長に寄与しているものと考えられる。

なお、この研究結果をまとめた論文は、国際的な学術誌である『ジャーナル・オブ・エイバイロンメンタル・ラジオアクティビティ』に掲載され、オンラインで公開されている。

支部総会開催一覧表

Table with columns: 支部名, 平成28年度 日程, 出席者 (校友会, 大学), 参加者数, 場所, 講演など. Lists branch meetings across various prefectures like Tokyo, Niigata, Gunma, etc.



事業計画などを決めた初の総会

全国教職員部会連絡協が総会 地区研修会やデータ収集へ

全国教職員部会連絡協は、7月2日、グリーンアカデミーで総会を開いた。昨年11月に設立総会を開いて以降、初めての総会。地区(ブロック)研修会を開くこと、教職員の校友を把握するデータを収集することなど、平成28年度事業計画を決めた。

総会には教職員部会関係者、各ブロック支部長ら50人が参加。27年度の事業報告と決算、28年度事業計画と予算について協議した。開会あいさつした外園桐会長は高齢化社会と人口減少の進展という厳しい情勢を憂いつつ、教職員を目指す学生の確保と教員採用に関する協力を呼び掛けた。議事では小野甲二幹事長

が同協議会設立の経緯と卒業生教職員の名簿調査の進捗(しんちょく)状況について報告。27年度末までに27支部から報告があったことを明らかにした。それによると高校教職員約9000人、その他の学校の教職員約145人、教職員OB約500人、合わせて約1545人の名簿が整理できたとしている。

Table for '平成28年度支部ブロック会議開催' with columns: 支部ブロック名(当番支部名), 開催日・場所, 本部出席役員. Lists meeting dates and locations for various regions.

会員の動静

- List of member activities and deaths. Includes names like 石川県支部 野々市芳朗氏, 瑞宝双光章(高年齢者), etc., along with dates of passing.

Advertisement for books from '東京農大の本' (Books from Tokyo University of Agriculture). Includes titles like '山のきもち', 'わが家は低塩・無添加のお漬物', '続・サイエンス小話', 'しあわせのものさし', and '食農と環境 No.18'. Each entry includes a cover image, author, and price.

挑戦の秘話に感銘

経営者会議 異業種交流会 石川、岐阜で開催

第14回目を迎えた東京農大経営者会議異業種交流会は、平成28年7月6日(水)〜8日(金)泊3日で総勢36名が参加しました。

今年も九州(熊本、大分)地域を交流地として予定をしていましたが、熊本地震の影響で、交通事情等を懸念し、急遽 北陸地方に変更しました。行程は石川県金沢市から岐阜県高山市を巡りました。

平成25年度経営者大賞を受賞された石川県金沢市の本昌康氏(株式会社ぶどうの木代表取締役社長)並びに、平成27年度経営者賞を受賞した同県の増江世圭氏(加賀木材株式会社代表取締役社長)の企業を訪問しました。

また、宿泊先のホテルで受賞されたお二人の講演会を開催しました。

お二人からは農大卒業後、創業から今日までの様な考えで経営に取り組んでこられたか、成功までの挑戦秘話、ビジネス哲学の講話をいただきました。

お二人の熱意あふれるお話しに参加者全員熱心に聴き入り感銘し、意義深い視察交流でした。

二日目の講演会より、高

野克己学長が参加されました。

学長を囲む懇親会では、地元の校友会、参加者、大学、経営者会議会員が強い連帯感をもって本学の発展に全力を尽くし、学生への支援に対する結束がなされました。

なお、お忙しい時期にもかかわらず、お忙しな中にも参加して頂いた校友会石川県支部の安田舜一郎氏、校友会岐阜支部の太幡正樹氏、上野田隆平氏、祐成敏樹氏に感謝申し上げます。

東京農大経営者会議 会長 新田 恭一郎



異業種交流会に参加された皆さん(岐阜県高山市で)



ブドウの木の説明をする本昌康社長

東京農大経営者フォーラムにおける東京農大経営者大賞などの受賞者名簿(2000年~2015年)

東京農大経営者会議は、表に掲げる東京農大経営者フォーラムの受賞者(役職などは受賞当時)を会員の母体として構成し、経営者のネットワークづくり、異業種交流や各地域圏交流などを行うことを通じて、母校の発展に寄与することを目的としています。

東京農大経営者会議では、国内外でご活躍されている卒業生の企業経営者の皆さまの会員加入を募集しております。

【お問い合わせ先:東京農大経営者会議事務局(キャリアセンター)TEL03-5477-2234】

2000年				
大賞	西 太郎	三和酒類(株)代表取締役会長	大分県宇佐市	昭35醸
	大沢 一彦	日本食研(株)代表取締役社長	愛媛県今治市	昭38畜
	佐藤 四郎	(株)日比谷アメニス代表取締役社長	東京都練馬区	昭42造
	越部 平八郎	(株)みかど青種農場代表取締役会長	千葉県花見川区	昭27農
	田辺 正宜	農事組合法人日進温室組合理事長・組合長	熊本県八代市	昭47短農
	三上 光一	いちご農家自営	栃木県下都賀郡壬生町	昭44短農
	小山 景一	(株)小山本家酒造取締役社長	埼玉県大宮市	昭32短農
	舛本 康隆	(株)ますやみそ代表取締役会長	広島市南区	昭30化
	福家 茂	(有)マルキン代表取締役	香川県高松市	昭45短農
	東口 義巳	とぐち農園社長	奈良県大和郡山市	昭51農
経営者賞	小澤 恒夫	小澤酒造(株)代表取締役会長	東京都青梅市	昭23専農
	藤田 康之	(有)はるみ園代表取締役	三重県鈴鹿市	昭53林
	石津 光雄	常総開発工業(株)代表取締役会長	茨城県鹿嶋市神栖町	昭20専緑土
	吉村 人志	(有)ワイルドプランツ吉村代表取締役	長崎県佐世保市	昭47造
	内山 達夫	内山緑地建設(株)代表取締役社長	福岡県浮羽郡田主丸町	昭38造
	針塚 藤重	針塚農産代表	群馬県渋川市	昭32農
	赤地 勝美	グローバルビッグファーム(株)代表取締役社長	群馬県渋川市	昭39拓
	荒木 克也	あさき花弁園代表	ブラジル	昭36拓
	小澤 恒夫	小澤酒造(株)代表取締役会長	東京都青梅市	昭23専農
	杉田 芳男	(株)あいや代表取締役社長	愛知県西尾市	昭45経
経営者賞	鈴木 吉助	東京ボード工業(株)代表取締役社長	東京都文京区	昭40林
	本名 幹司	(株)柏屋代表取締役社長	福島県郡山市	昭50短栄
	三林 憲忠	ヤマモリ(株)代表取締役社長	三重県桑名市	昭50醸
	三村 雄爾	キグチワールド(株)代表取締役社長	アルゼンチン	昭39拓
	天野 勝美	(株)豊田ガーデン代表取締役	愛知県豊田市	昭50造
	永原 國夫	キミセ醤油(株)代表取締役社長	岡山市	昭36醸
	畑 吉次郎	農事組合法人夢企画代表理事	長野県佐久市	昭50拓
	久富 正廣	(株)クスコ代表取締役社長	福岡県久留米市	昭48造
	吉村 人志	(有)ワイルドプランツ吉村代表取締役社長	長崎県佐世保市	昭47造
	若松 大介	岐阜県しょうゆ協業組合理事長	岐阜県可児郡	昭34短醸
2001年				
大賞	安藤 暢敏	安藤山林緑化(有)代表取締役社長	北海道空知郡	昭50林
	久保 富雄	(株)旅館たにがわ代表取締役	群馬県利根郡	昭44造
	久保 容子	(株)旅館たにがわ専務取締役	群馬県利根郡	昭42短栄
	佐久間 寛	(株)サカタのタネ相談役	神奈川県横浜市	昭34農
	針塚 藤重	針塚農産代表	群馬県渋川市	昭32農
	福田 詮	福田酒造(株)代表取締役社長	長崎県平戸市	昭49醸
	三角 修	みすみ農園	熊本県菊池市	昭50拓
	石川 信夫	(株)石川酒造場代表取締役社長	沖縄県西原市	昭36醸
	島袋 周仁	(株)久米島の久米仙代表取締役社長	沖縄県浦添市	昭40醸
	手塚 光裕	叶屋園芸場代表	山梨県南アルプス市	昭41経
経営者賞	中村 博昭	(株)エヌエタープライズ代表取締役社長	山口県防府市	昭48化
	向山 史夫	富士食品工業(株)代表取締役会長	神奈川県横浜市	昭39経
	松山 茂徳	農業生産法人黒富士農場代表	山梨県甲斐市	昭48畜
	諸 広司	(株)ソーキ代表取締役社長	東京都国立市	昭59栄
	後藤 義博	(有)山二園社長	静岡県沼津市	昭52経
	仲野 益美	出羽桜酒造(株)社長	山形県天童市	昭59醸
	中村 陽一	イチビキ(株)代表取締役社長	愛知県名古屋市中区	昭30化
	藤原 誠太	(有)藤原アイスクリーム工場専務取締役	岩手県盛岡市	昭56拓
	松谷 英二郎	松谷化学工業(株)代表取締役社長	兵庫県伊丹市	昭20専化
	八日市屋敏雄	(株)フリーデン代表取締役社長	神奈川県平塚市	昭39経
経営者賞	稲澤 敏行	(株)イナサワ商店代表取締役	東京都北区	昭36化
	猪俣 市郎	(有)猪俣林業代表	秋田県本荘市	昭52農
	坂倉 鋭一	坂倉味噌醤油(株)代表取締役社長	千葉県野田市	昭36短醸
	前田 恒和	(有)前田商店代表取締役	静岡県賀茂郡東伊豆町	昭43経
	梶谷 満昭	(有)梶谷農園取締役	広島県三原市	昭49農
	梶谷 きよみ	(有)梶谷農園取締役	広島県三原市	昭49拓

経営者賞	中洞 正	(株)中洞牧場代表取締役	岩手県宮古市	昭52拓	
	橋本 敏雄	(株)応用生物代表取締役	東京都港区	昭42農	
	藤巻 眞史	(株)丸九代表取締役社長	山梨県笛吹市	昭50院化修	
	今井 教文	ロイヤル(株)代表取締役社長	神奈川県横浜市	昭50経	
	新田 恭一郎	ホテルサンパレーグループ代表取締役社長	東京都渋谷区	昭39院経修	
	新井 健一	(株)あらい農産代表取締役	埼玉県行田市	昭53短農	
	滝沢 栄喜	(有)ブラウンエッグファーム取締役社長	長野県佐久市	昭58畜	
	2006年				
	大賞	海野 一幸	(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ代表取締役社長	山梨県甲府市	昭43農
		福原 俊秀	農事組合法人アグリコ代表理事	長野県駒ヶ根市	昭45農
本間 惇		(株)ベストフーズ代表取締役	東京都世田谷区	昭42工	
村石 愛二		(有)村石養鶏場代表取締役	千葉県夷隅郡	昭51経	
経営者賞	青木 久夫	大和事業協同組合理事長	埼玉県川口市	昭27経	
2007年					
大賞	大泉 高明	(株)大和生物研究所代表取締役社長	東京都世田谷区	昭51化	
経営者賞	今村 英男	(株)シャトー勝沼代表取締役社長	山梨県甲州市	昭34醸	
八藤 眞	(株)エフ・エル・アイ代表取締役	東京都中央区	昭47栄		
2008年					
大賞	池上 知恵子	(有)ココファーム・ワイナリー専務取締役	栃木県足利市	昭59短醸	
	荻堂 盛秀	やんばる物産(株)代表取締役社長	沖縄県名護市	昭40工	
	長田 清一	(有)カクタス長田代表取締役社長	静岡県沼津市	昭44農	
	久慈 浩介	(株)南部美人専務取締役	岩手県二戸市	平7醸	
経営者賞	大橋 邦雄	(株)東京アグリビジネス代表取締役会長	東京都板橋区	昭49林	
諸富 一文	(有)諸富林産興業代表取締役社長	福岡県八女市	昭57林		
2009年					
大賞	白石 好孝	白石農園代表	東京都練馬区	昭52農	
	松本 善雄	(株)ノノ蔵監査役	宮城県大崎市	昭33醸	
	浅見 紀夫	(株)ノノ蔵代表取締役名誉会長	宮城県大崎市	昭42醸	
	松本 善文	(株)ノノ蔵代表取締役社長	宮城県大崎市	平1醸	
村井 良隆	(株)あさ開代表取締役社長	岩手県盛岡市	昭56醸		
技能賞	猪又 康夫	造園技師	アルゼンチン	昭36造	
経営者賞	大平 洋一	(株)雪国まいたけ取締役兼執行役員	新潟県南魚沼市	平9化	
齋藤 博通	(株)フラワージュップ美樹代表取締役社長	東京都町田市	昭48農		
吉村 浩巳	(有)ヨシムラ専務取締役	長崎県佐世保市	平3農		
2010年					
大賞	正田 隆	正田醤油(株)代表取締役社長	群馬県館林市	昭58醸	
	松下 芳春	松下園代表	静岡県掛川市	昭51短農	
	山内 保範	キプロ(株)代表取締役社長	岡山県井原市	昭54林	
経営者賞	石川 照雄	MARUIファーム	神奈川県横浜市	昭53農	
2011年					
大賞	川中 敬三	川中醤油(株)代表取締役社長	広島市	昭49醸	
	櫻井 芳樹	浅間酒造(株)代表取締役	群馬県吾妻郡	昭45短醸	
	清水 陸央	清水牧場WESTLAND FARM代表	東京都西多摩郡	昭56畜	
2012年					
技能賞	柳原 一成	近茶流宗家 柳原料理教室(株)代表取締役	東京都港区	昭40造	
経営者賞	望月 保秀	(有)スウィートメッセージやまろく代表取締役	静岡市	昭53農	
2013年					
大賞	内田 多加夫	白百合醸造(株)代表取締役社長	山梨県甲州市	昭47院化修	
	本 昌康	(株)ぶどうの木代表取締役	石川県金沢市	昭50農	
	楊 世安	味丹生物科技(株)代表取締役社長	台湾台中市	平3醸	
経営者賞	本多 宗勝	(有)ほんだ代表取締役	石川県能美市	昭42農	
宮川 将人	(有)宮川洋蘭専務取締役	熊本県宇城市	平13醸		
特別賞	鈴木 日出男	中商商事(株)相談役会長	ブラジルサンパウロ州	昭32化	
2014年					
大賞	尾村 敦司	(有)菜匠代表取締役	栃木県小山市	平5産経	
	佐伯 誠	三笠産業(株)代表取締役社長	山口市	昭49工	
	西村 亮彦	チュウモク(株)代表取締役会長	富山県南砺市	昭36林	
経営者賞	吉原 一成	イッセイ花園代表	栃木県日光市	昭52短農	
2015年					
大賞	佐々木余志彦	掛川中央茶業(株)代表取締役社長	静岡県掛川市	昭57農	
	南雲 二郎	八海醸造(株)代表取締役	新潟県南魚沼市	昭55短醸	
経営者賞	増江 世圭	加賀木材(株)代表取締役社長	石川県金沢市	平8林	

※出典:国際バイオビジネス学科、キャリアセンター

農友会 活動

体育団体

世田谷キャンパス硬式野球部強化指定部

東都大学2部の農大は、春季リーグ4勝7敗で第5位。秋季リーグ1分10敗で最下位6位と低迷。3部優勝の農大と入れ替え戦へ。

オホーツク生物産業学部硬式野球部強化指定部

2015年のプロ野球ドラフト会議でエースの井口和朋投手（日本ハムファイターズ）と主将の樋越優一

陸上競技部女子強化指定部

第95回関東学生陸上競技選手権大会（関東インカレ）（5月19〜22日、横浜・日産スタジアム）
15000m決勝で土田佳奈（健1）が4分36秒42で4着、3000m障害で清水萌衣乃（醸2）が10分14秒53で2着、5000m決勝で棟久由貴（健1）が16分17秒82で3着に入賞した。

「2016 ホクレンディスタンスチャレンジ」第3戦（7月11日、北海道網走市）
1方以て棟久由貴が31分58秒46の3着となり、自己ベスト・農大新記録・日本学生歴代4位・日本ジュニア歴代8位の好記録を樹立した。
ニューカレドニア国際マラソン（8月21日、ニューカレドニア）
初マラソンで優勝
佐藤有希（健2）が2



全日本選手権に出場、今後の活躍が期待されている新チーム

OBの活躍

**プロ野球ドラフト会議
日ハムが玉井選手指名**

2016年プロ野球ドラフト会議が10月20日に開かれ、オホーツク野球部OBの玉井大翔（平27産経卒・新日鉄住金かずさマジック所属）



日本ハムに指名された玉井大翔選手（大学当時）

が北海道日本ハムファイターズから8位で指名された。最高147km/hの直球に加え、キレのあるスライダーなど多彩な変化球をテンプポ良く投げ込む。先発、リリーフ両面でチームを支えた。大学4年の

秋季リーグでは21イニング無失点と好投し、3度目の最高殊勲選手に輝いた。卒業後は社会人チームに進み力を付けた。先に日本ハムに進んだ井口は大学の後輩。7勝を挙げている加藤は社会人で共にプレーした。

自動車部

全関東学生自動車運転競技選手権大会（3月26日、東京都日野市）
▽女子小型貨物の部
吉川瑠美（森3・写真中央）優勝。



優勝した吉川瑠美選手

埼玉県熊谷市）

3000m障害で清水萌衣乃が10分05秒52の自己ベスト記録で4着となった。棟久由貴は1方以て33分06秒18で2着、5000m以て15分51秒28の自己2番目の記録で3着となる活躍をした。

なお、棟久はこの成績で日本学生連合がユニバーシアードの強化策の一環として派遣するオランダで行われる15キロロード

第85回日本学生陸上競技選手権大会（9月2〜4日、



優勝した佐藤選手

ホッケー部

関東学生ホッケー春季リーグで、男子部は4位、女子部は3位決定戦で早稲田大学を破り3位となった。この結果、男子部・女子部は全日本大学ホッケー王座決定戦に出場。男子部は1回戦敗退、女子部はベスト8となった。また、



活躍するホッケー部女子

ラクロス部

ホッケー選手権大会（インカレ）があり、ホッケー部は優勝を目指しこの大会に臨む。

男子は関東学生1部に主手

関東学生ラクロス2部リーグのラクロス部男子は、4勝1敗の成績で1部との入れ替え戦進出が決定した。

関東学生ラクロス1部リーグのラクロス部女子は、1勝4敗の成績で2部との入れ替え戦が決定した。ラクロス部女子の関口紗生（健2）は、2016年度女子日本代表に選出され、6月5日に開かれた第



2部入れ替え戦が決定した女子

オホーツクキャンパスカーリング部

1部入れ替え戦進出が決定した男子



27回ラクロス国際親善試合（東京）に出場した。来年7月に英国で行われるワールドカップ世界大会に出場予定だ。

「School & College Competition」とは、中学・高校・大学のチームがチアリーディングやダンスの技を競う夏に行われる東日本大会。今年は、10人の新入生を迎え24人出場。

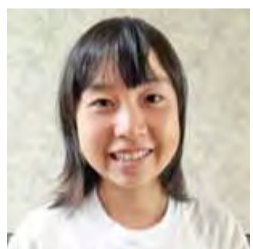
3年前に世界大会に出場したものの、その後は苦戦していたが2年ぶりに好成績を収めることができた。来年3月に行われる全国大会では優勝を狙う。



2位となったチアリーダー部

全国制覇を目指す女子チーム
左からセカンド芳賀香織（食香4）リード浅野もえぎ（アクア4）サード山田星花（食香4）キャプ江口仁奈（アクア4）

女子長距離が2年連続



棟久由貴選手

第22回関東大学女子駅伝対校選手権大会（9月25日、千葉市・印西千葉ニュータウ

で準優勝した。レースは1区清水萌衣乃が区間4位



準優勝した駅伝の選手ら

の好走でたすきをつなぐと2区小堀真佳（栄4）がトップに立ち、2位に6秒の差をつけてたすきをつないだ。3区・4区で順位を落としたものの5区佐藤由希が区間3位、アンカー棟久由貴が区間賞を獲得する走りでも順位を上げ堂々の2位でゴールした。

当日は、校友会千葉県支部の校友が熱い声援を送った。

リオ五輪で熱い戦い 森坂・OB 成松選手

ボクシング

全力出し切る／悔しさを東京で晴らす

第31回オリンピック競技大会は8月5日～8月21日の17日間、ブラジル・リオデジャネイロで開催された。1996年の第1回アテネ大会から120年となるオリンピックの歴史で初めての南アメリカ大陸での開催で、熱い戦いが繰り広げられた。日本代表選手団は28競技306種目に選手3355人、監督・コーチら262人を派遣した。ボクシング競技は、男子250人、女子36人の合計286人の選手が出場し、階級は男子10階級、女子3階級で行われた。東京農大からはバンタム級で森坂嵐選手（ビジネス2）とライト級でOBの



勇敢に攻め抜いた森坂選手



2回戦で惜しくも判定負けとなった成松選手

成松大介選手（平24経卒）が出場し、「チームジャパンの一員として誇りと自覚を持ち、正々堂々と全力で競技に挑んだ。成松選手の初戦は、ベネ

ズエラのルイス・カブレラ選手（アメリカ地区予選優勝者）と対戦。持ち前の硬いガードから力強いパンチを再三ヒットさせ勝利した。2回戦は、米国の

バルデラス選手（第8シード）と対戦した。同選手は19歳だが、1回戦で優勝候補のカザフスタンに勝った選手。パワフルなボクシングとスピードと技術を持つ。成松選手は、1ラウンドからペースをつかんでいくが、2ラウンドから作戦を変えてきたバルデラス選手のスピードある攻撃を交わすことができずヒッティングを許してしまい惜しくも判定負けとなった。

森坂選手は初戦、アルメニアのアラム・アバキヤン選手（ヨーロッパ地区予選3位）と対戦した。世界選抜限定選手の戦いだけに厳しい試合となることは予想されていた。森坂選手は、勇敢に攻め抜いたがパンチをもらった印象が

悪かったのか2-1の判定で惜しくも初戦を突破できなかった。長い間、ひたむきに努力を重ねてきたが、勝負は一瞬で決まる厳しさを知った両選手だった。試合を終えた成松選手は「すべて全力を出し切りました」、森坂選手は「この悔しさは、2020年東京オリンピックで晴らします」とそれぞれの思いを語った。

山本浩二監督の談話
両選手に対して、格別なるご支援、ご尽力を賜りました大学関係者の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、これからも農大ボクシング部の強化に全力を尽くしていくことを誓います。

リオ五輪 東京ではメダル狙う

リオデジャネイロオリンピックに出場した成松大介選手と森坂嵐選手の栄誉をたたえる報告会が9月16日、明治記念館で開かれた。



あいさつした成松、森坂両選手は、「精進して、東京オリンピックではメダルを獲得する」と力強く宣言した。また、報告会には本学出身のプロボクサーで世界3階級王者の井岡一翔選手が出席して報告会に花を添えた。

ボクシング部

意欲を見せた。成績は次の通り。

▽バンタム級Ⅱ中野幹士（ビジネス3）優勝

▽ライト級Ⅱ森坂嵐（ビジネス2）優勝（2年連続）

▽ライト級Ⅱ中島魁士（経2）3位

▽ライトフライ級Ⅱ森義明（ビジネス3）5位



バンタム級で優勝した中野幹士選手とライト級で優勝した森坂嵐選手

剣道部

第65回関東学生剣道優勝大会（9月11日、日本武道館）全日本学生剣道優勝大会の予選を兼ね98大学が出場した。



7年連続で全日本出場を決めた剣道部

11月3日に開催される全日本剣道選手権大会に秋田県代表で草野大心（平23工卒）が4年連続、大分県代表で東山慎平（平24経卒）が初出場を決め、剣道日本一に挑戦する。両OBの活躍を祈念する。

馬術部

吉田選手が個人優勝

東京・世田谷区にあるJRA馬事公苑で6月23～26日、関東学生賞典馬術三大会が開かれ、障害飛越競技に出場した吉田匡慶（ビジネス3）が個人優勝した。過去に団体優勝はあるが、個人優勝は創部104年の歴史を持つ馬術部でも初めて。さらに、吉田は



障害飛越競技で優勝した吉田匡慶

ボディビル・パワーリフティング部

ボディビル・パワーリフティング部は週4回練習している。主な練習内容は、スクワット、ベンチプレス、デッドリフト。パワーリフ



優勝した新井選手

第16回世界サブジュニア、第34回世界ジュニアパワーリフティング選手権大会（8月29日～9月3日、ポーランド・シチルク）新井一真（工3）がジュニア男子53kg級で優勝した。

文化団体

社交ダンス研究部

第54回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会（7月3日、大阪府門真市）ラテンの部で紀田慶雅



ラテンの部の紀田慶雅・大原理子組

（醸4）・大原理子（経4）組が7位、小林和久（醸3）・松下梨花子（栄3）組が9位、スタンダードの部で小堀森平（経4）・正木智子（栄4）組が9位に入賞。団体で5位。

ボディビル・パワーリフティングは前記3種目の最大挙上重量の総計を競う。また世界大会では総計と各種目の最大挙上重量ごとにメダル争いがある。

陸上競技部 = 男子



応援を背に力走する小山直城選手

順位	記録	氏名	学科	出身
31	1:00:33	小山直城	醸2	埼玉・松山
50	1:00:57	折居卓哉	造4	埼玉・進修館
97	1:01:37	西村昌悟	森4	埼玉・松山
105	1:01:44	加藤大地	開2	千葉・市立船橋
129	1:02:08	矢口寛大	森4	栃木・白鷲大足利
137	1:02:12	木山雄生	開4	香川・観音寺一
148	1:02:26	森 柊斗	経2	栃木・佐野日大
170	1:02:48	瀬戸口凌	経2	埼玉・市立川口
193	1:03:11	西野匠哉	醸1	佐賀・鳥栖工業
199	1:03:14	高橋悠平	工3	長野・東海大三

第93回東京箱根間往復大
学駅伝競争(箱根駅伝)の
予選会が10月15日、東京・
立川市の陸上自衛隊立川駐
屯地をスタート、国立昭和
記念公園をゴールとする20

箱根駅伝出場権
今年も逃す

予選会が10月15日、東京・立川市の陸上自衛隊立川駐屯地をスタート、国立昭和記念公園をゴールとする20

のコースで実施された。今年には関東学連の50大学が参加、来年正月の本戦出場権10枠をかけて死闘を展開した。

農大は、一昨年11位、昨年は12位に終わり、本戦への出場権を逃している。今年こそは」と、箱根の古豪・伝統校の名譽にかけて、70



力走する小堀真佳選手

富士山駅伝への
出場権は確保

大会に4年連続24回目の出場を果たした農大女子駅伝チームは、最上級生の小堀真佳を中心に懸命の力走で健闘したものの11位に終わり、来年の同大会シード権

都伝
都駅
全日本大学女子駅伝
若手力走も11位

の確保はならなかった。強豪校相手に若手選手で臨んだ農大は、昨年の7位を上回る5位以内の上位入賞を目標に掲げたが、序盤から苦しい展開となり、順位を上げられなかった。しかし、12位以内に入ったことで12月30日に静岡県富士宮市浅間神社をスタートして行われる全日本大学選抜女子駅伝(富士山駅伝)への出場権は確保した。

栄養科学科4年
小堀が力走

本大会は6区間全長38キロ、立命館大、大東文化大、松山大ら農大を含むシード8校、予選を勝ち抜いた地区代表17校、オープン参加の東北学連選抜の26チームが出場した。

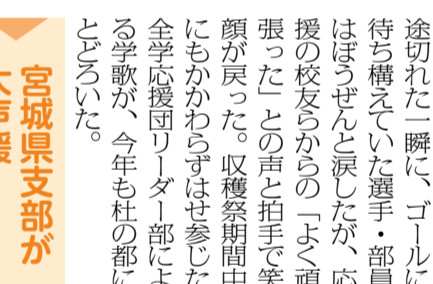
スタート1区は各校のスピードランナーがそろった。農大は3000メートル障害のスペシャリスト清水萌衣乃を昨年引き続き起用したが16位と出遅れた。2区の小堀は遅れを挽回すべく区間3位の懸命の力走で順位を上げ13位でリレー。3区は各校とも実力者をそろえた。農大は長距離に強い佐藤有希が懸命な走りでも順位を守った。4区は最も距離の短い区間。各校スピードランナーを配置。農大の土田佳奈は、順位を守りたすきをうけないで、5区は各校がプライドをかけてエースを起用する最長区間。1年生ながら日本学生歴代4位の記録を持つスーパーキー・エースの棟久由貴は、区間6位の素晴らしい走り

で順位を上げ、アンカー6区は原田紗枝にリレー。昨年7位のテープを切った原田は、必死の力走で順位を守り11位でゴールに飛び込んだ。2年連続シード権確保が途切れた一瞬に、ゴールに待ち構えていた選手・部員はぼうぜんとして涙したが、応援の校友からの「よく頑張った」との声と拍手で笑顔に戻った。収穫祭期間中にもかかわらずせせせら全学応援団リーダー部による学歌が、今年も杜の都にとどろいた。

区間	氏名	学科	出身	区間順位	総合順位
1区	清水萌衣乃	醸2	神奈川・逗子	16位	16位
2区	小堀 真佳	栄4	神奈川・多摩	3位	13位
3区	佐藤 有希	健2	茨城・キリスト教	16位	13位
4区	土田 佳奈	健1	新潟・明訓	12位	13位
5区	棟久 由貴	健1	山口・西京	6位	11位
6区	原田 紗枝	健2	千葉・成田	13位	11位

宮城県支部が
大声援

スタートの仙台陸上競技場や沿道では宮城県支部の校友が力走する母校選手に声援を送った。レース終了後、長田千治監督が「大学関係者はじめ、多くの校友の期待に応えられなく申し訳ありませんでした。選手を含む部員一同、精いっぱい頑張りましたが、これが



出場した6人の選手

宮城県支部が
大声援

スタートの仙台陸上競技場や沿道では宮城県支部の校友が力走する母校選手に声援を送った。レース終了後、長田千治監督が「大学関係者はじめ、多くの校友の期待に応えられなく申し訳ありませんでした。選手を含む部員一同、精いっぱい頑張りましたが、これが

- ▽団体戦Ⅱベスト8
- ▽個人戦Ⅱ鈴木涼汰(工4)ベスト8
- ▽95回東日本学生相撲選手権大会(6月5日、両国国技館)
- ▽団体戦Ⅱベスト8
- ▽個人戦Ⅱ鈴木涼汰(工4)ベスト8
- ▽6回全日本大学選抜相撲金沢大会(7月17日、金沢市)
- ▽団体戦Ⅱベスト8
- ▽43回東日本学生相撲個人体重別選手権大会(7月24日、靖国神社)
- ▽75キロ未満級Ⅱ志賀裕人(開2)3位
- ▽85キロ未満級Ⅱ中畑裕雅(森4)優勝
- ▽100キロ未満級Ⅱ石川竜司(開1)準優勝
- ▽135キロ未満級Ⅱ鳥山崇(工3)ベスト8。境昂紀(工3)9位
- ▽無差別級Ⅱ北村直樹(森4)ベスト8

- ▽51回全日本大学選抜相撲十和田大会(8月14日、青森県十和田市)
- ▽団体戦Ⅱベスト8
- ▽個人戦Ⅱ鈴木涼汰(工4)ベスト8
- ▽41回全日本学生相撲個人体重別選手権大会(9月25日、大阪府堺市)
- ▽無差別級Ⅱ北村直樹(森4)3位

編集後記

国内および海外支部などから多数の参加者を迎え、農大校友会史上、初めての世界大会を開催した。何しろ大イベントであり、慣れと小人数の事務局状態ではあったが、何とか無事に終えることができた。十分なおもてなしもできなかつたが、多くの方からご慰労の言葉をいただき、苦労したかいがあったと思っている。

何より参加いただいた校友会支部役員のかたがたや大学関係者の皆さまのご支援・ご協力があったからこそであり、心から感謝のお礼を申し上げます。(小野)

- ▽個人戦Ⅱ鈴木涼汰(工5日、福岡県久山町)
- ▽26回全国選抜大会・社会人対抗相撲九州大会(5月5日、福岡県久山町)
- ▽個人戦Ⅱ鈴木涼汰(工5日、福岡県久山町)

相撲部Ⅱ強化指定部

第56回全国大学選抜相撲宇佐大会(5月3日、大分県宇佐市)

とができなかった。レースには、陸上競技部員から選抜された12人が出場。予選会通過キップの目安となる100位以内には3人(昨年5人)と涙をのんだ。来年の予選会突破を期待したい。当日は校友会の三好吉清会長ら本部役員も沿道で応援、東京都支部、地元・校友会三多摩常盤松会、千葉県支部、神奈川県支部、静岡県支部など多くの校友が母校ののぼりや横断幕を持って声援を送った。



注目浴びる小柳閑

平成28年3月の大阪府所から導入された三段目、同場所から角界入り

OBの活躍

小柳閑 福岡場所は十両で土俵に

時津風部屋に所属する農大相撲部出身力士の中で、現在注目を浴びている力士が『小柳』だ。

大阪場所では三段目最下位で7戦全勝、5月の東京場所では幕下西58枚目で同様の7戦全勝。7月の名古屋場所では幕下西7枚目まで上がり、角界デビュー3場所目で初の土(負け)が付いたものの、6勝1敗と堂々たる成績。9月の東京場所では幕下東筆頭で勝ち越せば十両(関取)昇進となるプレッシャーのかかる戦いで、3連敗から

の4連勝という快挙を成し遂げた。この結果、11月の九州場所では十両力士として土俵に上がることになった。また、幕内の正代関は、5月場所は幕内東2枚目(6勝9敗)、7月場所は幕内東5枚目(9勝6敗)、9月場所は幕内西2枚目(7勝8敗)と我慢の取り組みが続いている。しかし、着実に力を付け上位にも勝負を挑めるようになり、下位の力士には取りこぼしなく勝てるようになっていく。

農大相撲部で力を競い合った正代と小柳が

空は間垣親方、土佐豊は安治川親方となり、時津風親方と共に力士への稽古指導を行っている。

時天空と土佐豊は引退

校友の皆さまから長く応援していただいた時天空と土佐豊の2人がそれぞれ引退。時天



土佐豊の断髪式

- 編集委員
- 委員長 小泉 幸道
- (副会長・名誉教授)
- 委員 館 博
- (短醸・教授)
- 委員 豊原 秀和
- (常任理事・名誉教授)
- 委員 石川 浩一
- (法人本部・総務部長)
- 委員 小野 甲二
- (常任理事・事務局長)